

導入

1 はじめに

下水道は、市民の健康で快適な生活環境を支えるとともに、公共用水域の水質保全や浸水被害の軽減を担う重要な都市基盤施設である。また、近年では、気候変動への適応や脱炭素社会の実現に向けた取組を支える社会インフラとして、その役割はますます重要性を増している。

武蔵野市の下水道事業は、昭和 27 年に整備を開始し、昭和 62 年には市内全域の下水道普及率 100%を達成した。これまで、市民生活の衛生環境の向上や公共用水域の水質改善、浸水被害の軽減に大きく寄与し、良好な都市環境の形成に重要な役割を果たしてきた。

一方で、本市の下水道施設は整備開始から 70 年以上が経過し、初期に整備された管きよをはじめとする多くの施設が老朽化している。今後は、更新需要の増加に加え、野川流域幹線接続管きよ整備などの大規模事業が予定されており、持続的な事業運営に向けた計画的な投資と資産管理が求められている。全国的にも下水道施設の老朽化対策は喫緊の課題となっている。特に令和 7 年に発生した埼玉県八潮市の道路陥没事故は、下水道施設の老朽化が市民生活や社会経済活動に深刻な影響を及ぼすおそれがあることを改めて認識させる契機となり、施設老朽化リスクへの社会的関心は一層高まっている。こうした状況を踏まえ、本市においても適切なストックマネジメントによる計画的な点検・改築更新を進め、下水道施設の安全性・信頼性を確保していくことが重要となっている。

また、近年は気候変動の影響により集中豪雨や台風の激甚化・頻発化が進み、下水道に求められる浸水対策の水準も高まっている。本市においても、市民の生命と財産を守るため、流域関連機関との連携を図りながら、雨水排水施設の整備や浸水対策を着実に推進していく必要がある。

経営面においては、人口動向は比較的安定しているものの、節水機器の普及や節水意識の定着により有収水量の伸びは期待しにくい状況にある。一方で、施設更新費用の増加に加え、物価上昇や建設資材費、労務費の高騰により事業費の増加が見込まれていることから、今後の経営環境は一層厳しさを増していくものと予測される。

このため、「武蔵野市下水道総合計画」との整合を図りつつ、下水道使用料の見直しを含めた財源確保のあり方や投資・財政計画を再点検し、安全で安心な下水道サービスを将来にわたり持続的かつ安定的に提供していくため、「武蔵野市下水道事業経営戦略」を改定するものである。

2 経営の基本方針

本市の下水道事業は、「次世代へつなぐ、くらし支える下水道」の理念のもと、市民生活を支える重要な都市基盤として、安全・安心な下水道サービスを将来にわたり持続的に提供していくことを目指す。

図表 1 基本理念

